

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676300116
法人名	医療法人 愛誠会
事業所名	グループホーム あがいやんせ
訪問調査日	平成19年12月1日
評価確定日	平成19年12月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4676300116
法人名	医療法人 愛 誠 会
事業所名	グループホーム あがいやんせ
所在地	鹿児島県曾於市大隅町岩川5520番地 (電 話) 099-482-2535
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年12月1日

【情報提供票より】(19年10月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成11年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12人	常勤	4人、非常勤 8人、常勤換算 9.8人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り
	1階建ての 1階 ~

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,150 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1		3名	要介護2		1名	
要介護3		3名	要介護4		1名	
要介護5		1名	要支援2		0名	
年齢	平均	85.6歳	最低	74歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	昭南病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは民家改造型であり、高い天井で縁側付の和室と洋室がある。同一法人の病院、老人保健施設に併設しており、その連携により医療面のバックアップ体制が充実している。家族会の運営も活発で、家族旅行が行われるなど、ご家族の協力を得ながらサービスの質の向上を目指している。また入居者は、ハウスのボランティアをしたり、隣接する老人保健施設の入所者と定期的に交流するなど、なじみの関係づくりが図られている。職員はレクリエーションや脳活性リハビリ等を行う中で、入居者本人の意志を尊重し一人ひとりの自尊心を高める声かけや、他の入居者に認めてもらえる場面づくりなど、入居者同士の心の関わりも大事にして、見守り・待つケアを実践している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の啓発については、運営推進会議を計画的に開催し、テーマを掲げ運営するよう努め、ホームの運営や理念について地域の人々に話す機会を設けたり、母体法人が発刊する地域向けの広報誌に掲載するなどして、地域への運営理念の啓発活動に取り組んでいる。また、緊急時の手当については、入居者の急変や事故発生時に備え、消防署の協力を得て普通救命講習会や蘇生術の研修に職員が参加し、さらに緊急対応マニュアルの改善を行い、全職員が同じ流れで実施できるように統一を図っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の項目については職員研修時に活用しており、全職員で自己評価を行い検討して、改善計画を立てて実践することでサービスの質の確保や向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議には、入居者・ご家族・地域の町内会長・民生委員・行政担当者が出席し、ホームの実情や取り組みについての報告や認知症に関する勉強会、ご家族や地域の方々との意見交換などを行っており、具体的な改善に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 入居者の近況や介護計画の内容・評価について、ご家族と月に1回の面談を実施して報告している。またパソコンを用いて、1ヶ月の生活状況の写真を見てもらったりしている。定期的に家族会が開催され、ご家族主導で運営されている。家族会からの意見・要望等も必ず聞き、ミーティング時を利用してご家族の意見を前向きに受け止めて活かして行くよう取り組み、ホームの運営にも反映するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小学校の運動会や社会科見学の機会に、入居者と小学生がお互いに行き来したり、中学生の職場体験の受け入れや幼稚園のお遊戯会を見に行くなどして地域の活動に参加している。また、併設施設で行う地域向けの健康教室では、認知症に関する話をするなど、地域の高齢者の暮らしに役立っており交流も図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営基準には、地域住民との交流を大切にし、地域の各種行事等に積極的に参加するなど明示している。		これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援を行い、地域との関係を築いている現状を踏まえた理念に見直していくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員の入職・ミーティング時は必ず理念を伝えており、日々のサービス提供場面などでは、個々の職員が理念の実践に向けて修得度評価表を作成し、目標を持ち進めて行けるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や社会科見学等の機会に、お互いに行き来したり、中学生の職場体験の受け入れや、幼稚園のお遊戯会を見学に出かけたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目については研修にも活用し、全職員で自己評価を行い検討し、改善計画を立てて実践につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者・ご家族・地域の町内会長など幅広い立場の人が参加しており、率直な意見を受けて改善に向けた取り組みを行い、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体法人で開催される研修会に行政担当者も参加しており、職員との共通理解が図られている。今後さらに、ホームの運営や実情を積極的に理解してもらえるような取り組みを検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の近況等について、月に1回、ご家族との面会時に報告を行っている。また、家族会時は職員の異動や紹介を行い、金銭管理状況についても金銭出納帳を明示して確認のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や月1回の家族面談時に、ご家族等からの意見・要望を聞いている。その後、ミーティング時に、それらの意見を前向きに受け止めて活かして行こうと工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者やご家族との信頼関係を築くためには、馴染みの職員を配置することが大切だと考えている。離職や異動については、時期を考慮して後任の職員との引継期間を十分にとり、スムーズに移行できるように配慮している。	○	昨年度、職員が替わったことにより入居者へのダメージがあったのではないかと全職員で考え、その改善策に向けた具体的な検討や工夫を行い、改善に取り組み始めている。今後も、入居者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制づくりへの取り組みに期待したい。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の合同勉強会や外部研修にも、全職員が交代で参加している。また、外部研修での内容については、全職員が共有できるように、研修内容の報告をする機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会主催の研修に参加し、同業者との交流や連携を行っており、ホームや地域全体のサービス水準の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に入居者やご家族に何回か見学してもらったり、職員が自宅に伺ったりしている。また、母体の老人保健施設から入居する場合は、事前に遊びに来ていただいたり、今まで関わっていた施設の職員が訪問するなど、場の雰囲気に少しずつ馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を人生の大先輩として尊敬し、いろいろな場面で教えていただく姿勢を常に忘れないように心がけている。援助される側・する側ではなく、一人の人としてお互いに助け合うなど、入居者から学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の言葉や行動を捉え、本人の思いを知る努力をしている。また、毎月の家族面談時には、どのような暮らしが本人にとって一番良いのか、常に意向を聞き話し合っている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人のできることで、できるであろうことを考え、新たな気づきを得るようにしている。また、ご家族との毎月の面談時や月1回のカンファレンスで、全職員の意見を聞き、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで、介護計画の見直しや変更の必要性を全職員で協議し、介護計画の実施状況・本人の状態変化なども含めて、家族面談時に報告し、承認を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎などの必要な支援を柔軟に行っている。検査入院や、1～2週間の入院時にも、ご家族の状況に応じて、職員が病院と連携をとっている。		
ある					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診・通院は、本人やご家族の希望に応じている。ご家族の同伴受診ができないときは、職員が代行するなどして支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合について、毎月の面談時にその都度ご家族と話をして、本人やご家族の意向を確認している。また、医師・看護師からの話やコメントをもらい、ご家族へ報告している。この際、他施設の紹介や機能も説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り時は名前を出さないような配慮をし、電話の対応時には別の部屋に移動するようにしている。入浴支援の際は、洗面・脱衣所等もプライバシーの確保をするようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にするような環境づくりに心がけている。本人の意志を聞いて、希望やペースにそった支援を行っているが、1日1回は、交流を図るためにグループワークを取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が菜園で収穫した野菜を、どんな料理にするかを話し合い、職員と一緒に料理して、食卓で皆で同じものを食べている。入居者自身が、自分の食べた後の茶碗洗いもしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、いつでも入りたいときに入っていただけるように、毎日お風呂が沸いている状態である。入浴が嫌いな方や、体調の悪い方には、その都度、その方に合わせた入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が得意としていた事を共に生活する中で発見し、庭掃除や、飼っているうさぎの世話・台所仕事や野菜作りの好きな方など、入居者一人ひとりに合った役割や楽しみのある生活となるような場面づくりや働きかけの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとに、車で出かけることを多く取り入れている。また、近くの公園や園庭に、入居者と職員で作った弁当を持って出かける機会もある。また、母体の老人保健施設の入所者との交流も積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。入居者が外へ出られた場合は、その目的や方向等を日々確認している。すぐに声かけや行動を制止するのではなく、一緒について行くなどして、入居者の思いに添った声かけのタイミングを待つことを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を行っている。また、運営推進会議時に、地域の方に、ホームでの火災発生時の協力依頼や環境整備についての意見をもらい協議している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事献立を記録し、個別の食事摂取量や水分摂取量も記録している。また、管理栄養士に相談するなどして、栄養バランスや献立内容について定期的にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型で、入居者の身体状況に応じた和室もあり、落ち着いた生活空間となっている。共有空間のリビングには、生活感や季節感のあるものを取り入れるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、本人が居心地よく過ごせるように、本人の好きな写真や飾り物を置くなど、ご家族が中心となり環境づくりを行っている。		